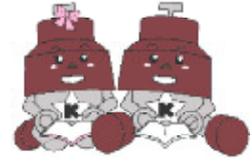




川口市立図書館

図書館だより



パソコン用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/>

携帯電話用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAN.CSP>



携帯用 QR コード ➔

わたしの今年の一冊 2012

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は、今回で17回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で26点、掲載させていただきます。

「天保暴れ奉行」 中村彰彦／著

実業之日本社 2007 年刊 913.6/ナ

「気骨の幕臣 矢部定鎌。」

歴史に埋れて知らなかったけど、その生き方、とにかく感激しました。最後を迎える場面では涙がとまりませんでした。もう少し生きていれば幕末も変わっていたかと思えます。(50代 女性)

「生きるぼくら」 原田マハ／著

徳間書店 2012 年刊 913.6/ハ

いじめを受けひきこもりだった麻生人生が、ひとりぐらしの祖母まあさばあちゃんに会いにい。人と絆、食べること、生きていくことをさらりと読ませる本。生きる元気がわいてくる今年一番おもしろかった本。ぜひよんでみては？(50代 女性)

「地震がくるといいながら高層ビルを

建てる日本」 デュラン・れい子／著

講談社 2008 年刊 302.1/テ

この本を読んで、日本という国を改めて外から見る事が出来、ヨーロッパと比較しながら、日本という国の本来の姿を知る事が出来ました。オススメです！(30代 女性)

「夫への詫び状」 金美齡／著

PHP 研究所 2012 年刊 289.2/シ

人として何が本当に大切な事かという事を自らの人生をもとに語ってくれた本でした。惜しみない愛情を人にそそぐ事が出来るという事がいかにむずかしい事かと実感しました。(50代 女性)

「風が強く吹いている」 三浦しをん／著

新潮社 2006 年刊 913.6/ミ

今さら読んだって感じですが、これは面白い。箱根駅伝って 正月にばくぜんと見ていたましたが、予選までと本番と。そして、たすきをつなぐ走者の思い。

まるで自分が走りながら考えているような景色が見えて、苦しさが伝わってきて、たすきを渡すまで、ゴールするまで。とにかく一気に読んだ本。(40代 女性)

「口紅のとき」 角田光代／著

求龍堂 2012 年刊 913.6/カ

ある女性のさまざまな年齢における口紅にまつわる物語。

幼い少女期の口紅をさす母へ 感じる複雑な心境や、思春期の恋人から贈られる様々な思いを抱かせる口紅、など。

この本を読んで、何気なく身近にある口紅が、やはり女性にとっての特別なアイテムと改めて感じ、読み終えて心地の良い切なさを感じた素敵なお話でした。(30代 女性)



川口市制施行 80 周年

住んで良かった！これからも住み続けたい！ふるさと川口



「オリエント急行とパンドラの匣」

はやみねかおる/作 講談社

2005 年刊 K913/ハ

パンドラの匣がどこに行ったのか、私はまったく分かりませんでした。それをいともかんたんに分かってしまう夢水清志郎に感激です。

私の将来の夢は小説家なので、はやみねかおるさんのような物語を書けるようにしたいです。

(10代 女性)

「三姉妹探偵団」 赤川次郎/著

講談社 1985 年刊 913.6/ア

1年前の冬に読んだこの本を もう一度読みました。内容は、個性豊かな三姉妹が事件と出くわし、面白いストーリーで事件を解決するというシリーズ物の 記念すべき第1作目です。

赤川さんの親しみやすい文章、引き込まれるような表現に、是非、魅了されてください。

(10代 男性)

「朽ちていった命」

NHK「東海村臨界事故」取材班/著

新潮社 2006 年刊 493.1/ク

1999 年の東海村臨界事故で大量の放射線を浴びた患者と治療にあたった医療スタッフの壮絶な 83 日間を追う。この治療の日々がどう終わったのか覚えている人は多いでしょうが、その詳細はどうでしょうか。これはとても読むのが辛い本ですが、今思い出し 改めて知るべきことだと思えます。(30代 女性)

「サンカーラ」 田口ランディ/著

新潮社 2012 年刊 913.6/タ

人の生き死に、被災、反原発 運動、日本という国…。

東日本大震災以降、心に引っかかったままになっている事を、いろいろな人との出会いや繋がりを手がかりに丁寧に考えていくと、それが自分のこれまでの 人生とこれからの生き方を見つめる事になる。「解決」や「答え」や「行動」に直結しなくても、一人一人が考えるという事が大切と感じいった。(50代 女性)

「百年の蝶」 深月ともみ/著

岩崎書店 2010 年刊 K913/フ

いままで何も知らされずに目をかくして生きていた子がいきなり未来を見られると、びっくりすると思いました。母も火事で亡くしてしまっているのに「さびしい」という感情を出さないのはすごいと思いました。

私もナユタたちみたいに強くなりたいと思う。

(10代 女性)

「失はれる物語」 乙一/著

角川書店 2003 年刊 913.6/オ

6篇が収録されているこの短編集は、映像化されているものもある。私がこの中で一番心に残るのは『ウソカノ』。主人公の嘘から始まる存在するはずのない彼女との交流。切なく共感できる場所があり、読みやすかった。涙もろい私はこの話で泣いてしまった。(10代 女性)

「高校野球って何だろう」 渡辺元智/著

報知新聞社 2012 年刊 783.7/ワ

今年の夏は桐光学園の松井裕樹君にしてやられたが、激戦区神奈川にあって、甲子園常連校である横浜高校。

率いるは名将渡辺監督である。怪物松坂大輔も叱れば口答えする！ 過熱する保護者達に頭も痛める。

現役(監督)ゆえ、語り口は押え気味だが、逸材達を厳しく鍛え、又、甲子園に乗り込んでほしい。(50代 女性)

「12月25日の怪物」 高橋大輔/著

草思社 2012 年刊 386/タ

この日付でわかるように「怪物」とは、サンタクロースのことです。

サンタには2つの説があって、その1つには、意外な「怪物」が出てきて、わくわくします。

これを読んでからクリスマスや年末を迎えると、ちょっとうれしい気分になりそうです。今年、読んでみてはいかがでしょう。(50代 女性)

「桶狭間は晴れ、のち豪雨でしょう」

松嶋憲昭／著

メディアファクトリー 2011 年刊 210.0/マ
著者は気象予報士である。元寇、桶狭間の戦い、壇ノ浦、島津勢の琉球侵攻、二・二六事件、シーボルト事件などを、気象予報士から見た見方で解説している。久々に面白い本だった。

(50代 男性)

「心のおくりびと 東日本大震災復元納棺師」

今西乃子／著 金の星社 2011 年刊 K 369/I
この本は2012年夏の小5、6年生すいせん図書として発売しました。大人が読んで胸がしめつけられ、改めて震災のひどさ、忘れてはいけないという気持ちが沸き上がりました。親子で読んでも良いかと思えます。(40代 女性)

「自由生活」上・下 哈金／著

日本放送出版協会 2010 年刊 933.7/ジ
故郷への思いと、新しい土地での生活のこと。生活していくということの苦勞と喜びが、読んでいて、自分のことのようにいきいきと感じられました。(年齢性別記載なし)

「鬼神伝」高田崇史／著

講談社 2004 年刊 913.6/タ

守るべきは源雲・貴族たちなのか、鬼といわれる神々なのか。今まで学校で教わってこなかった歴史の見方を教えてもらった一冊です。人々が金銀財宝をうばい、うちでのこずちをうばった桃太郎や一寸法師の中の鬼たちは、何もしていないのに、なぜ悪く表わされるのか、わかった様に思えます。(50代 男性)

「三匹のおっさん」有川浩／著

文藝春秋 2009 年刊 913.6/ア

「世の中年よ！ 頑張れ！！」とエールをもらいました。(年齢性別記載なし)

「光圀伝」冲方丁／著

角川書店 2012 年刊 913.6/ウ

水戸黄門様のイメージしかなかったのが、冲方丁さんの小説で人間的魅力たっぷりの光圀様に出会えた。今年の終わりに素晴らしい本に出会えた事に感謝。(60代 女性)

「一分間だけ」原田マハ／著

宝島社 2007 年刊 913.6/ハ

愛猫を14年飼っていたが、天国へ行ってしまって、少し気分がめいっていたが、この本を読んで癒された。

今まで当たり前だと思っていたことが、実はとても幸せなことなんだなと思った。(40代)

「遺体 震災、津波の果てに」石井光太／著

新潮社 2011 年刊 369.3/I

東日本大震災から1年9か月。

この本を読んで改めて、この震災の痛ましさを思い知らされました。もし、この川口で震災が起きたら自分はどのように行動したらよいか、ただ呆然と立ち尽くしてしまうだけではないのか、この現実をしっかり受け止めたいと思いました。

(40代 女性)

「妖怪アパートの幽雅な日常」

香月日輪／著 講談社 2003 年刊 Y 913/コ

読んでいくに従い、主人公や周りの人々や、妖怪たちに心奪われました。この世の中、真っ直ぐに生きていくのはむずかしい、人を信じてばかりいるのは難しい。でもこの本の中のようなことがちょっとは あってもいいんじゃないかと思えました。主人公の周りの親友や大人、それに先生。こんな人たちがいたらいいな。大人が読んで、とても温かくなれる本だと思います。(50代 女性)

「二トの歩き方」pha／著

技術評論社 2012 年刊 367.6/フ

なかなか社会から認められない二トですが、これを読めば二トの気持ちがわかります。

(20代 女性)

「下町ロケット」池井戸潤／著

小学館 2010 年刊 913.6/I

中小企業の社長が、大企業と渡り合っていく姿に感動した。いくつになっても夢を追いつづけることは素敵だなと思いました。(40代 男性)

「舟を編む」三浦しをん／著

光文社 2011 年刊 913.6/ミ

主人公の言葉へのこだわりが、とても素敵で、最後泣けてしまいました。ほんのりと心が温かくなる本でした。(50代 女性)

○「猫弁」大山淳子 ○「こんなはずじゃなかった」松原惇子 ○「悪の教典 上・下」貴志祐介
 ○「陽だまりの彼女」越谷オサム ○「楽園のカンヴァス」原田マハ ○「永遠のO」百田尚樹
 ○「ラブコメ今昔」有川浩 ○「オオカミ族の少年(クロニクル千古の闇 1)」ミシェル・ペイヴァー
 ○「天地明察」沖方丁 ○「みをつくし料理帖シリーズ」高田郁 ○「ソロモンの偽証」宮部みゆき
 ○「日蔭の村」石川達三 ○「幸福な生活」百田尚樹 ○「都会のトム&ソーヤ(シリーズ)」はやみねかおる
 ○「ハリーポッターと賢者の石」J.K.ローリング ○「国の借金」アツと驚く新常識」廣宮孝信
 ○「サウスポイント」よしもとばなな ○「フロックスはわたしの目」福澤美和 ○「夜行観覧車」湊かなえ
 ○「怒らないこと 1・2」A. スマナサーラ ○「若おかみは小学生！(シリーズ)」令丈ヒロ子
 ○「ヘリオット先生と動物たちの8つの物語」ジェイムズ・ヘリオット ○「覇道の関ヶ原」伊藤浩士
 ○「元気になってねフェンディ」大塚敦子 ○「ソラマメばあさんをおいかける」たかどのほうこ
 ○「若者はなぜ3年で辞めるのか？」城繁幸 ○「ぼうず丸もうけのカラクリ」ショーエン K
 ○「ゆるるシッポの子犬きらら」今西乃子 ○「人がガンになるたった2つの条件」安保徹
 ○「あっちの豚 こっちの豚」佐野洋子 ○「特異家出人」笹本稜平 ○「東京大洪水」高嶋哲夫
 ○「わたしの渡世日記 上・下」高峰秀子 ○「おもかげ復元師」笹原留似子 ○「武家用心集」乙川優三郎
 ○「置かれた場所で咲きなさい」渡辺和子 ○「メジャーリーグの大研究」国松俊英 ○「シアター！」有川浩
 ○「わかったさんのクレープ」「わかったさんのショートケーキ」寺村輝夫 ○「国家救援医」國井修
 ○「紳士協定」佐藤優 ○「日本葬制史」勝田至 ○「右であれ左であれ鈴木邦男対談集」鈴木邦夫
 ○「結婚できない男」尾崎将也 ○「たとへば君」河野裕子他 ○「まほろ駅前多田便利軒」三浦しをん
 ○「宮沢賢治は名探偵！！」楠木誠一郎 ○「パセリ伝説(シリーズ)」倉橋耀子 ○「真夏の方程式」東野圭吾
 ○「パーティミアス ソロモンの指輪①～③」ジョナサン・ストラウド ○「リブセンス」上阪徹
 ○「百年法 上・下」山田宗樹 ○「ラバー・ソウル」井上夢人 ○「神様のカルテ3」夏川草介
 ○「図書館戦争」有川浩 ○「はしれ！けいひんとうほくせん」松本典久他 ○「心の森」小手鞠るい
 ○「イタリアパルティザン群像」岡田全弘 ○「古代史疑」松本清張 ○「行人」夏目漱石
 ○「長財布のヒミツ」はづき虹映 ○「ムツソリーニ 上・下」ニコラス・ファレル ○「一日一禅 上・下」秋月竜珉
 ○「ブータン、これでいいのだ」御手洗瑞子 ○「ベルリンの戦い 1945」ピーター・アンティル
 ○「これが本当の「忠臣蔵」」山本博文 ○「お手本の国」のウソ」田口理穂他 ○「江戸めしのススメ」永山久夫
 ○「土方歳三日記 上・下」菊地明 ○「世界軍歌全集」辻田真佐憲 ○「日本の原爆」保坂正康
 ○「盲目の時計職人」リチャード・ドーキンス ○「昭和史の天皇」読売新聞社 ○「ルポ子どもの無縁社会」石川結貴
 ○「一死、大罪を許す」角田房子 ○「ボクは坊さん」白川密成 ○「カメラが撮らえた会津戊辰戦争」『歴史読本』編集部
 ○「日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか」内山節 ○「孟子」金谷治 ○「スローライフ」筑紫哲也
 ○「ルポ良心と義務」田中伸尚 ○「あの戦争 上中下」産経新聞社 ○「占いと中世人」菅原正子
 ○「証言記録兵士たちの戦争」NHK「戦争証言」プロジェクト ○「だます心だまされる心」安齋育郎
 ○「ラーメン Walker 埼玉 2012」角川マガジズ ○「日本神社 100 選」臼田甚五郎 ○「抱朴子 内篇」葛洪
 ○「墨子よみがえる」半藤一利 ○「神社 日本史小百科」岡田米夫 ○「高校生からわかる「資本論」」池上彰
 ○「死刑」読売新聞社会部 ○「これだけは読んでおきたい特攻の声」北影雄幸
 ○「あの日 昭和 20 年の記憶 上・下」NHK「あの日昭和 20 年の記憶」取材班 ○「ラーメンマップ埼玉 15」さいたま書房
 ○「華中特務工作」秘蔵写真帖」広中一成 ○「イスラーム原理主義の「道しるべ」」サイド・クトゥブ
 ○「死因事典」東嶋和子 ○「終戦秘史」下村海南 ○「古代出雲への旅」関和彦 ○「哲学散歩」串田孫一
 ○「ここまでわかった邪馬台国」『歴史読本』編集部 ○「昭和史(1926～1945)」半藤一利 ○「道教」今枝二郎

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想、書名のすべては掲載できませんでした。

ご協力いただきました皆様、ありがとうございます。

☆ お読みにになりたい本が見あたらない時は、カウンターでおたずねください ☆

南鳩ヶ谷文庫にDVD！！

4月から南鳩ヶ谷文庫の蔵書資料として、新たにDVDが加わります。

映画(洋画・邦画)や美しい音楽・映像の資料、子ども向けのDVD(乗り物やアニメなど)が合計111枚加わります。たくさんのご利用をお待ちしております。

※開館カレンダー・開館時間のご案内は、ホームページ上で最新のものをご確認ください。